

◇必要不可欠なもの、大事な視点、大切なこと(全体の意見)

必要不可欠なもの	項目	項目名	大事な視点、大切なこと
目的、考え方	第1章-2	協働のまちづくりとは	しあわせ感 安心、安全 歴史と今(温故知新) 金・モノにこだわらない あるものを生かす
目的の共有	第1章-2	協働のまちづくりとは	共通目的 お見合い参加、呼びかけの場 理解者(賛同者) 互いの目的を知り合える場、機会 協働すると互いに楽になるという理解が必要
考え方	第1章-2	協働のまちづくりとは	意識改革 互いのやりがい、ほめあう ある種のユーモア、楽観主義 ワクワク感を互いに出し合う場 団体として余裕を持つ、チャレンジを見つける 良い意味でのホラ吹き(こんなことしんまいけ?)
シンプルに	第1章-2	協働のまちづくりとは	協働というものを広く浸透させる シンプルさ、言葉も内容も「協働」⇒「コラボ」
リーダーに負担をかけない	第3章-1	協働意識を醸成するために	犠牲的気持ちを持つ人 個人(リーダー)に過度な負担をかけない リーダーからコラボメーカーへ 動く人、リーダー、スタッフ、物好き(コーディネーター)
ほめる! まずやってみる! 持続性 楽しく活動 満足(^ ^)	第3章-1	協働意識を醸成するために	協働のうまい例を褒めたたえる!! とりあえず、やってみようの気持ち 持続性のある楽しいこと 楽しい活動 目標達成したら、みんなで達成感を味わう 成果、満足感
人集め	第3章-1	協働意識を醸成するために	若者への参画を呼びかけ 声かけの工夫 飲コミュニケーションを増やす 仲間づくり 色々な職業を持っている友達がいる 話し合いの場
協働の理解	第3章-1	協働意識を醸成するために	市民の協働理解が低い(意識の変化) 行政も市民も協働への理解が必要 協働への共通理解 未来予想図 バラ色×灰色
人材育成	第3章-1	協働意識を醸成するために	コーディネーター育成 コーディネート、仲介連携 人づくり(コーディネーター、プロデューサー) 人材育成 人のために(自分を犠牲にしても)
カッコイイ協働コーディネーターを育てる (行政内部、行政外部) (育成のための予算)	第3章-2	協働のまちづくり推進体制の整備	協働コーディネーターを育てる骨組? 協働人材育成 協働コーディネーターをカッコイイ職業に、NHKプロフェッショナル 行政内部の協働をコーディネートする役職
つなぎ役、コーディネーター	第3章-2	協働のまちづくり推進体制の整備	コーディネーター(意見2つ) 町会長や班長がそうであってほしい やりたい人(役員)が数人いたらいい コーディネーター、相談、つなぎ役 おせっかい焼きさん、コーディネーター
仕組み(チェック)	第3章-2	協働のまちづくり推進体制の整備	協働をやって特定のところに負担がかからないようにチェック制度を 市民の意識を改革する仕組み
イケてる協働の情報共有(情報共有) 協働の成功と失敗を共有	第3章-2	協働のまちづくり推進体制の整備	わかりやすい目的、共有できるもの 情報共有 見える「成功例」と失敗例 情報の共有 失敗事例集 情報誌メディア 情報がほしい 協働の成功体験 協働がうまくいっている町や団体の話を聞く 協働の良さ、素晴らしさを知る
利益、お金	第3章-2	協働のまちづくり推進体制の整備	継続性のある(少)利益 お金
場の確保			
良い事例の普及 プロデューサー 役割			良い事例を標準化し、普及する プロデューサーに学ぶ、つながる、連絡できる
情報の共有			分析力 声かけ 情報の共有 情報 情報共有できる場が必要 地域で取り組みをしている各団体の情報を知ることが大切
仕組みづくり	第3章-2	協働のまちづくり推進体制の整備	行政依存からの脱却 チェックシート(事業仕分け用) 自由な時間がある ある程度自己資金を持っている ネットワーク